



株主通信

スペイン沖で稼働中の「HAKURYU-10」

2012年3月期 第2四半期決算号

2011/4/1/～2011/9/30

JDC 日本海洋掘削株式会社

証券コード：1606

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、先の東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

当社グループにおきましては、子会社の日本マントル・クエスト株式会社が運用する「ちきゅう」が、青森県八戸港で津波により損傷を被りましたが、鋭意修復工事を進めました結果、僅かな遅れに留めてスリランカ沖での掘削工事を始めることができました。

2012年3月期第2四半期連結累計期間の業績について

当累計期間(2011年4月1日から2011年9月30日まで)におきましては、当社グループのリグは順調に操業を続け、当社子会社が保有する海洋掘削リグ5基の稼働率は100.0%(前年同期92.7%)となりました。

この結果、当累計期間における当社グループの売上高は16,923百万円(前年同期比18.7%増)となりましたが、持分法投資利益の減少、急激な円高の進行による為替差損等により、経常利益は3,936百万円(同11.2%減)、四半期純利益は2,606百万円(同25.6%減)となりました。

今後の事業環境と当社の経営方針について

今後の原油需給の見通しといたしましては、依然として世界景気の先行きが不透明ではあるものの、IEA等の専門機関によれば、世界全体の需要は今後も増加傾向が続くであろうと予測されています。このような背景から、海洋掘削リグの市況につきましても、今後稼働率、デイレートともに着実に上昇するものと見込まれております。

このような見通しの下で、当社は「リグフリートの増強」、「大水深マーケットへの本格参入」および「メタンハイドレート開発」の3つの成長戦略を掲げ、当社グループを挙げて全力で取り組んでおります。

具体的には、当社が本年3月に建造を発注したプレミアムクラスのジャッキアップ型リグ「HAKURYU-11」(仮称)は、2013年3月の完成を目指してシンガポールの造船所において建造工事が進められております。また、マレーシアの合弁会社が運用するセミサブマーシブル型リグ「NAGA 1」は、一昨年の「HAKURYU-5」と同様に来春には大規模な延命・アップグレード工事を実施する予定としております。さらに、カタールの合弁会社では現在ジャッキアップ型リグ2基の新規建造を進めております。

このほか、当社も僅かながら出資参加して建造工事が進められているブラジル向け大水深海域用のドリルシップは、12月中に完成した後、同国に向けて出航することとなります。さらに、「ちきゅう」が本年8月から開始したスリランカ沖での商業掘削工事を終了した後は、日本へ回航して太平洋南海トラフでメタンハイドレート関連の準備工事に従事する予定となっております。

当社グループでは、このように成長戦略の実現に着実に取り組んでいくことにより、収益力の強化と企業価値の持続的な向上を進め、株主の皆様にとりまして魅力ある企業集団となるように、より一層の努力をしております。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループに対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年12月



日本海洋掘削株式会社
取締役社長 村田 稔

「HAKURYU-5」

●マレーシア国営石油グループ会社との間で長期契約を締結

本リグは、10月にミャンマー沖での掘削工事を終了した後マレーシアに回航し、11月より同国の国営石油会社傘下のPetronas Carigali Sdn. Bhd. (PCSB社) によるマレーシア沖での掘削工事を開始いたしました。本工事は、ファーム1年+オプション1年の掘削契約により、マレーシアの合併会社UMW JDC Drilling Sdn. Bhd. (UJD社) を通して実施しております。UJD社の下では、同じくセミサブマーシブル型の「NAGA 1」がPCSB社の長期契約に従事しておりますので、今般の「HAKURYU-5」と合わせて2基での操業体制となりました。

当社は、経営戦略の一環として、産油国の国営石油会社との間で長期契約を締結すること、現地有力企業との合併により事業を推進することなどにより、長期安定的操業基盤を確立してまいりましたが、今般のPCSB社との長期契約の締結により、その基盤をより強固なものとすることができました。

●ミャンマー沖操業に対する客先からの高い評価

本年10月に操業を終了したミャンマー沖での掘削工事については、客先のDaewoo International 社から、リグの安全操業と模範的な作業に対し、高い評価と称賛の感謝状をいただいております。当社といたしましては、今後も引き続きグループ全体で安全かつ質の高い掘削サービスを提供することにより、高い顧客満足度を追求してまいります。



ミャンマー沖で稼働中の「HAKURYU-5」

「HAKURYU-10」

●スペイン沖における天然ガス圧入・備蓄井掘削工事、完了間近

本リグは、昨年8月からスペイン沖においてCobra Castor社による天然ガス圧入・備蓄井掘削工事に従事しており、順調に終盤を迎えておりますので、目下のところ明年2月中に完了する見通しとなっております。

本工事は、スペイン国内における天然ガスの供給および価格の安定化を図るため、パイプラインおよび海底下の貯蔵施設からなる天然ガス備蓄システムを建設するプロジェクトの一部を構成するものです。

当社では、通常の石油・天然ガス井の掘削工事に加えて、このような応用工事にも従事することにより、多様で安定したエネルギーの供給に貢献してまいります。



スペイン沖で稼働中の「HAKURYU-10」

「ちきゅう」

●スリランカ沖において大水深掘削工事を実施し、ガス層を発見

当社は、昨年11月に、Cairn Lanka社との間で、独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)が保有する「ちきゅう」を使用して実施する掘削契約を締結いたしました。当社が本船により初めて受注した本工事は、大水深マーケットへの本格参入を目指す当社グループにとりまして、今後の案件獲得につながるマイルストーンと位置付けられます。

本船は、8月上旬からスリランカ沖におけるファーム3坑の本工事を順調に実施しており、1坑目の試掘では厚さ25メートルのガス層が、続く2坑目では厚さ24メートルのガス層が発見されました。

スリランカにおいては、30年間近く内戦が続き、石油・天然ガスの開発が中断されておりましたが、今回の掘削により同国では初の油・ガス層が見つかったとして、業界紙に大きく報じられました。



「ちきゅう」によるスリランカ沖でのガス層発見を報じる新聞記事
(提供:「Upstream」2011年10月7日号)

●メタンハイドレート海洋産出試験準備のための掘削工事を受注

我が国では、経済産業省主導で「メタンハイドレート開発計画」が進められており、そのフェーズ2においてメタンハイドレート海洋産出試験が2012年度から2015年度に実施される予定であります。

当社は、その準備の一環である掘削工事を石油資源開発株式会社から受注し、来年の2月中旬から「ちきゅう」により実施する予定となっております。スリランカ沖での受注工事に続き、当社にとって2件目の受注案件となる本工事は、太平洋南海トラフにおいて観測井3坑とテスト井1坑を掘削することとなっております。



南海トラフにおける海洋産出試験の候補地

新造リグ「HAKURYU-11」(仮称)

●シンガポールの造船所にて建造を開始

プレミアムクラスのジャッキアップ型リグ「HAKURYU-11」(仮称)につきましては、本年3月にシンガポールのKeppel FELS社との間で新規建造契約を締結した後、実際の建造工事開始に先立ち、当社および造船所の関係者一同により“Strike Steel Ceremony”と呼ばれる起工式が9月に実施され、船体に使用される鋼板の最初の切り出しが行われました。本リグは、2013年3月の完成を予定しております。



Strike Steel(鋼板の切り出し)の様子



シンガポールの造船所で行われた起工式の様子

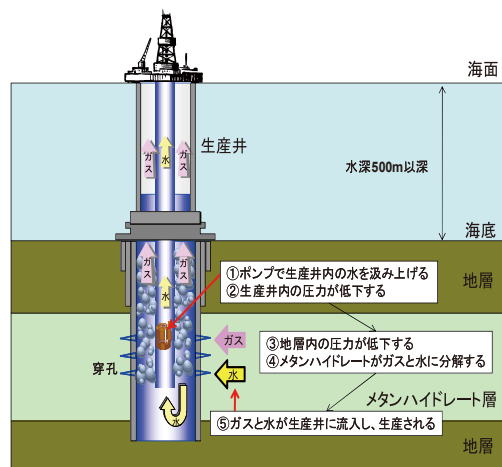
メタンハイドレート開発研究

●メタンハイドレート開発促進事業に係わる委託研究

当社は、経済産業省の推進する「メタンハイドレート開発計画」に、その開始当初より調査・研究開発業務を通して携わってまいりました。来年度に予定されている第1回海洋産出試験においても、メタンガスを回収する方法の一つである「減圧法」を実現するための坑内設置型産出試験装置の開発と、その運用を目的とした研究業務について、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)より受託して実施しております。

「減圧法」は、地層内の圧力を下げることによって、メタンハイドレートを水とガスに分解し、メタンガスを回収する手法で、2008年にカナダで行われた陸上産出試験では、世界で初めて同手法による連続生産に成功しています。

また、メタンハイドレート開発の経済性に係る研究業務についても、JOGMECより委託業務を受注し、実施しております。



「減圧法」概念図

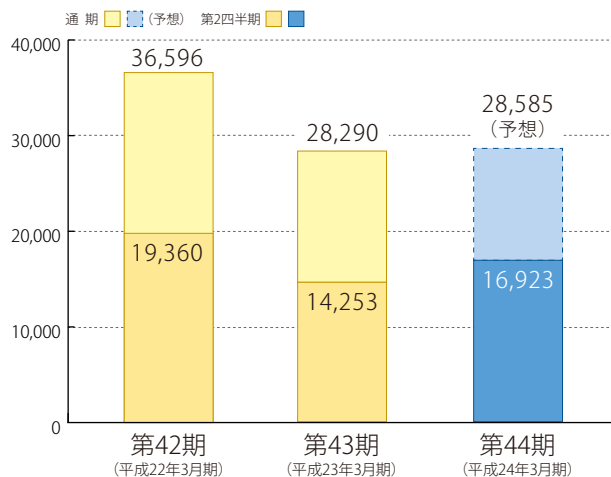
(提供:メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム)

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlight

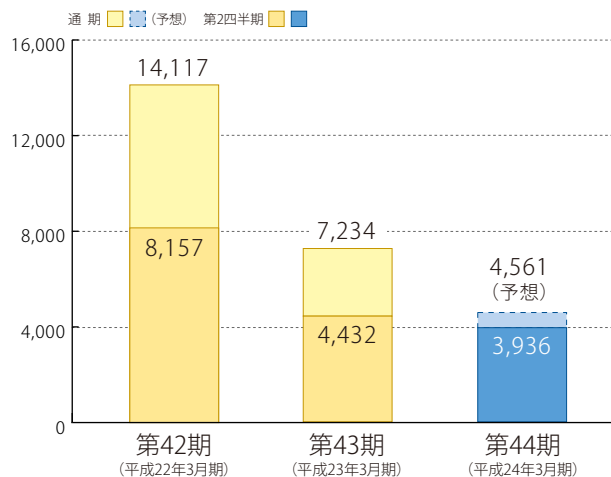
売上高

(単位:百万円)



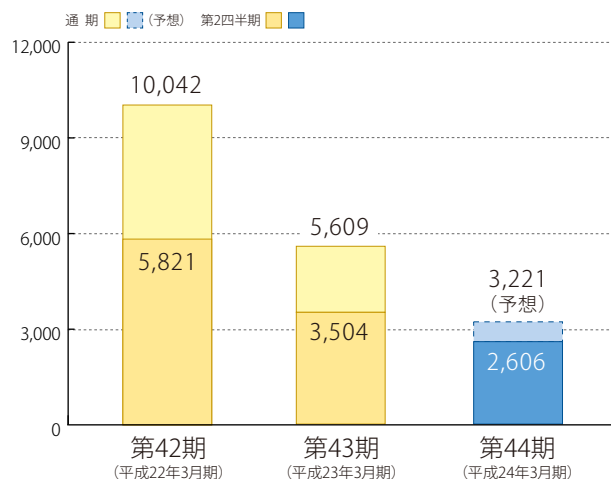
経常利益

(単位:百万円)



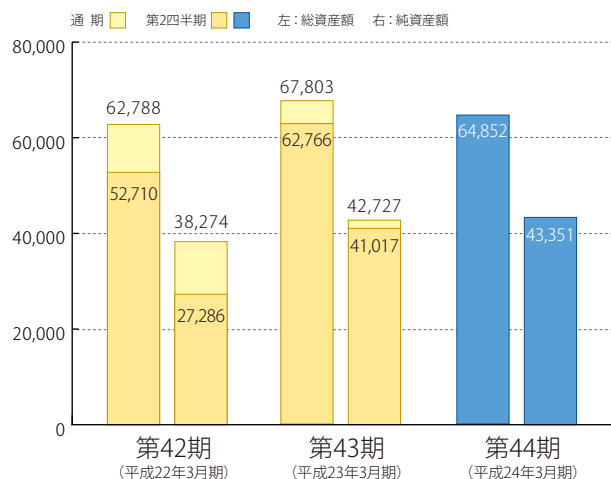
当期(四半期)純利益

(単位:百万円)



総資産額／純資産額

(単位:百万円)



会社情報 / 株式情報

Company Profile

会社概要

(2011年9月30日現在)

- 商号 日本海洋掘削株式会社
 英文社名 Japan Drilling Co., Ltd.
 設立 昭和43年(1968年)4月23日
 資本金 75億7,200万円
 事業目的 1. 石油・天然ガスの探鉱、開発に関する掘削作業
 および建設工事等の請負
 2. 掘削技術を応用した工事の請負
 3. これらに関連する調査、設計、監理および技術指導

従業員数 連結 323名(554名)
 単体 193名(120名)

(注)従業員数は、就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、嘱託社員を含んでおります。)であります。また、臨時雇用者数(現地外国人技術者、人材会社からの派遣社員を含みます。)は、最近3ヶ月間の平均人員を()にて外数で記載しております。

取締役、監査役および執行役員

(2011年9月30日現在)

代表取締役社長	村田 稔	常勤監査役	重松 英一郎
代表取締役副社長執行役員	大原 敏廣	監査役(社外)	杉 浦 勉
代表取締役専務執行役員	川瀬 昭雄	監査役(社外)	山 本 優
代表取締役専務執行役員	市川 祐一郎		
取締役常務執行役員	高橋 秀人	執行役員	武 藤 敦
取締役常務執行役員	伊藤 和男	執行役員	植 竹 成仁
取締役執行役員	山本 廣光	執行役員	井 上 徹
取締役執行役員	原田 敏雄	執行役員	嬉 野 通晴
取締役(社外)	讃良 紀彦	執行役員	山 田 健造
取締役(社外)	粕川 哲夫	執行役員	尾 上 陽一
取締役(社外)	手塚 登		

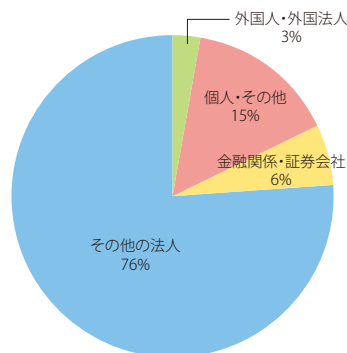
株式の状況

(2011年9月30日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	18,000,000株
株主数	8,031名

所有者別株式分布状況

(2011年9月30日現在)



大株主

(2011年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
石油資源開発株式会社	5,535,674	30.75
三菱マテリアル株式会社	4,689,036	26.05
国際石油開発帝石株式会社	1,152,000	6.40
株式会社アイ・エイチ・アイ マリヌナイテッド	560,000	3.11
三井造船株式会社	364,800	2.02
三井物産株式会社	364,800	2.02
J F E スチール株式会社	350,800	1.94
東京海上日動火災保険株式会社	307,000	1.70
東芝三菱電機産業システム株式会社	280,000	1.55
丸 紅 株 式 会 社	182,400	1.01

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
そのほか必要のあるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 〒100-8212
および特別口座の管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱所 〒100-8212
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告の方法 電子公告
ただし、やむを得ない事由により電子公告による
ことができない場合は、日本経済新聞に掲載する
方法により行います。

単元株式数 100株

